

# ミャンマー被災

## 10日で1400人診察

### AMDA理事が報告

ミャンマーのサイクロン被災地

で現地医師らによる巡回診療の調整をしている国際医療ボランティア「AMDA」（本部・岡山市）の鈴木俊介常任理事（45）が23日、一時帰国して記者会見を開き、現地の様子を報告した。活動を始めた11日から21日までに14

48人を診察した。

鈴木さんは、政府が被災の激しい地域への外国人立ち入りを制限しているため、ヤンゴン市内で活動を調整した。

現地からの報告では、17日

までの集計で多かった症状はけんたい倦怠感・衰弱184人（14%）、高血圧症163人（12%）など。高波被害が甚大だった地域では外傷を負った住民が多く、中には別の村まで波に流されながら助かった子どももいたという。